

世界遺産でたどる 人類は何を 造ってきたのか

紀元前から現代まで
290点の写真で読み解く
壮大な歴史ロマン

有史以前 ピラミッド、モヘンジョダロ 宗教建築の開花 モン・サン・ミシェル
王朝と帝国の時代 クレムリン、マチュ・ピチュ 探検から交易へ ヴェルサイユ宮殿
科学と産業革命 サグラダ・ファミリア、エッフェル塔ほか

102の「世界遺産」建造物を一挙紹介

目次

1章

文明の曙

有史以前から3世紀末まで

- 01 オルドヴァイ渓谷 ●タンザニア……………8
- 02 ジャワ島 ●インドネシア……………9
- 03 タドラット・アカクス ●リビア……………10
- 04 クエバ・デ・ラス・マノス ●アルゼンチン……………11
- 05 アルタの岩絵 ●ノルウェー……………11
- 06 ジュガンティーヤ神殿 ●マルタ……………12
- 07 ストーンヘンジ ●イギリス……………13
- 08 クフ王のピラミッド(ギーザの大ピラミッド) ●エジプト……………14
- 09 モヘンジョダロ ●パキスタン……………16
- 10 パーレーン要塞 ●パーレーン……………17
- 11 ハットトウシャ ●トルコ……………17
- 12 チヨガ・ザンビール ●イラン……………18
- 13 サナア旧市街 ●イエメン……………18
- 14 オリソピアの古代遺跡 ●ギリシャ……………19
- 15 ペルセポリス ●イラン……………20



- 16 モンテ・アルバンの「踊る人々の神殿」 ●メキシコ……………21

コラム01 世界の洞窟壁画とフレスコ画

- 17 バルテノン神殿 ●ギリシャ……………24
- 18 ブッダガヤの大菩提寺 ●インド……………26
- 19 都江堰 ●中国……………26
- 20 ナスカの地上絵 ●ペルー……………27
- 21 ヒエラポリス ●トルコ……………28
- 22 エル・カズネ ●ヨルダン……………29
- 23 嘆きの壁 ●エルサレム……………30
- 24 ポンペイ ●イタリア……………32
- 25 ハドリアヌスの長城 ●イギリス……………33
- 26 テオテihuワカンの「死者の大通り」 ●メキシコ……………34
- 27 ルーゴのローマ城壁 ●スペイン……………35



2章

4世紀から10世紀末まで

宗教建築の開花

- 28 聖誕教会 ●バレスチナ……………38
- 29 サン・パオロ・フォーリ・レ・ムーラ大聖堂 ●イタリア……………39
- 30 雲岡石窟 ●中国……………40
- 31 シギリヤ ●スリランカ……………41
- 32 聖カトリーナ修道院 ●エジプト……………41
- 33 アヤソフィア ●トルコ……………42
- 34 厳島神社 ●日本……………44
- 35 グランド・モスク ●チュニジア……………45
- 36 モン・サン・ミシエル ●フランス……………46
- 37 神殿26にある神聖文字の階段 ●ホンジュラス……………47

コラム02 さまざまな建築様式

- 38 ボロブドウル ●インドネシア……………50
- 39 アーヘン大聖堂 ●ドイツ……………52
- 40 プラハ城 ●チェコ……………53
- 41 プエブロ・ボニート ●アメリカ……………53
- 42 チチエン・イツツァ ●メキシコ……………54
- 43 ラクシユマナ寺院 ●インド……………55

3章 11世紀から15世紀末まで 信仰の波及と封建制

- 44 バグラティイ大聖堂 ● グルジア 58
- 45 クラック・デ・シュヴァリエ ● シリア 59
- 46 ヴェネツィアのサン・マルコ寺院 ● イタリア 60
- 47 ロンドン塔 ● イギリス 61
- 48 アンコール・ワット ● カンボジア 62
- 49 ウルネスの木造教会 ● ノルウェー 64
- 50 ピサの斜塔 ● イタリア 64
- 51 マルボルク城 ● ポーランド 65
- 52 アヴィニヨン教皇庁 ● フランス 66
- 53 姫路城 ● 日本 67
- 54 クレムリン ● ロシア 68
- 55 嘉峪関 ● 中国 68
- 56 ワット・マハータート ● タイ 69
- 57 シベニクの聖ヤコブ大聖堂 ● クロアチア 70
- 58 グーリ・アミール廟 ● ウズベキスタン 70
- 59 紫禁城 ● 中国 71
- 60 マチュ・ピチュ ● ペルー 72
- コラム03 世界遺産に匹敵する遺産 74
- 61 シヤイト・ゴンブス・モスク ● バングラデシュ 77
- 62 システイーナ礼拝堂 ● パチカン 78
- 63 トプカプ宮殿 ● トルコ 80
- 64 最後の晩餐 ● イタリア 81
- 75 サン・ペドロ・デ・ラ・ロカ城 ● キューバ 95
- 76 ポタラ宮 ● 中国 96
- 77 ケープ・コースト城 ● ガーナ 97
- コラム04 世界遺産によく似た建造物 98
- 78 ヴェルサイユ宮殿 ● フランス 100
- 79 キジ島の顕栄聖堂 ● ロシア 102
- 80 首里城 ● 日本 103
- 81 ジヤンタール・マンータル ● インド 104
- 82 ブルス広場 ● フランス 105
- 83 アチャオ教会 ● チリ 105
- 84 スオメンリンナの要塞 ● フィンランド 106
- 85 独立記念館 ● アメリカ 106
- 86 アイアンブリッジ ● イギリス 107



4章 16世紀から18世紀末まで 探検から交易へ

- 65 ジェロニモス修道院 ● ポルトガル 84
- 66 パナマ・ビエホ ● パナマ 86
- 67 コローメンスコエの昇天教会 ● ロシア 87
- 68 アーグラ城塞 ● インド 88
- 69 リトミシユル城 ● チェコ 90
- 70 マニラのサン・アグスチン教会 ● フィリピン 91
- 71 聖ポール天主堂 ● 中国(マカオ) 92
- 72 来遠橋(日本橋) ● ベトナム 92
- 73 アムステルダム運河 ● オランダ 93
- 74 日光東照宮 ● 日本 94

5章 19世紀と20世紀 科学と産業の時代

- 87 カザン聖堂 ● ロシア 110
- 88 ムスカウアー公園 ● ドイツ/ポーランド 111
- 89 リドー運河 ● カナダ 111
- 90 モアイ ● チリ 112
- 91 ニルギリ山岳鉄道 ● インド 114
- 92 フリーマントル刑務所 ● オーストラリア 115
- 93 サンタ・ラウラの硝石工場 ● チリ 116
- 94 フェルクリンゲン製鉄所 ● ドイツ 117
- 95 サグラダ・ファミリア ● スペイン 118
- 96 自由の女神 ● アメリカ 120
- 97 チャトラパティ・シヴァージー・ターミナス駅 ● インド 121
- コラム05 現代のユニークな建築物 122
- 98 エッフェル塔 ● フランス 124
- 99 カタルーニャ音楽堂 ● スペイン 126
- 100 泥のモスク ● マリ 126
- 101 原爆ドーム ● 日本 127
- 102 シドニーのオペラハウス ● オーストラリア 127

1章 文明の曙

今からおおよそ400万年前、人類の祖先である猿人の誕生とともに人類の歴史が始まった。人類は次第に農耕や牧畜を始め、文字を発明し、都市を築き上げた。そして、文明の発達は人々に精神的な変革をもたらし、世界各地で思想家や宗教が出現した。人類史の基盤となる時代の始まりである。



有史以前～3世紀の建築史	
230万年前	旧ドヴァイ渓谷
150万年前	ジャワ島
BC	
1万2000	タドラット・アカス
9000	クエバ・デ・ラス・マノス
4200	アルタの岩絵
3600	ジュガンティーヤ神殿
3100	ストーンヘンジ
2540	クフ王のピラミッド
2500	モヘンジョダロ
2300	パーレン要塞
1700	ハットゥシヤ
1250	チョガ・ザンビール
1000	サナア旧市街
776	オリンピアの古代遺跡
520	ベルセポリス
500	モンテ・アルバンの「踊る人々の神殿」
447	バルテノン神殿
260	ブツダガヤの大菩提寺 都江堰
200	ナスカの地上絵
190	ヒエラポリス
100	エル・カズネ
20	嘆きの壁
AD	
79	ポンペイ
122	ハドリアヌスの長城
150	ティオティワカンの「死者の大通り」
263	ルーゴのローマ城壁

トルコ西部の遺跡、ヒエラポリス。



02 ジャワ島

Java

インドネシア



ジャワ原人の化石が発掘された場所。

世界遺産名／登録年
「サンギラン初期人類遺跡」
1996年

アクセス
バリ島デンパサール国際空港から
ジョグジャカルタまで飛行機で約
1時間、ジョグジャカルタからサン
ギランまで車で約2時間。



ホモ・エレクトゥスに分類される原人の頭骨。



サンギラン博物館の敷地に設置されたジャワ原人の頭像。館内には頭骨、歯、大腿骨などの化石が展示されている。

初期人類化石の宝庫

1891年、オランダ人医師デュボアは、ジャワ島中部のソロ川流域で、人間と類人猿の間と思われる頭骨の一部と大腿骨の化石を発見した。デュボアは、この化石こそが人類が猿から進化したことを裏付ける証拠とし、猿人を意味するピテカントロプス・エレクトゥス（ジャワ原人）と名付けた。当時、多くの学者はこの発見に否定的であったが、1920年代に中国の周口店でも多数の化石人骨（北京原人）が発見されたことで、ジャワ原人も同類の初期人類の一種として進化上の地位が認められた。なお、今日の研究ではジャワ原人は現代人の直系の祖先ではなく、独自に進化した絶滅種とされており、ヒト属ホモ・エレクトゥスの亜種に位置付けられている。

その後、ジャワ島では150万〜1万年前頃までの化石人骨の発見が続いており、世界中で発見された化石人骨のおよそ半分が、ここサンギランの周辺で発掘されているという。

アフリカで誕生した初期人類がユーラシア大陸に版図を広げていったことを示し、世界遺産においては人類の祖先の足跡を示した、オールドヴァイ渓谷に次いで古い記録だ。

1891年、オランダ人医師デュボアは、ジャワ島中部のソロ川流域で、人間と類人猿の間と思われる頭骨の一部と大腿骨の化石を発見した。デュボアは、この化石こそが人類が猿から進化したことを裏付ける証拠とし、猿人を意味するピテカントロプス・エレクトゥス（ジャワ原人）と名付けた。当時、多くの学者はこの発見に否定的であったが、1920年代に中国の周口店でも多数の化石人骨（北京原人）が発見されたことで、ジャワ原人も同類の初期人類の一種として進化上の地位が認められた。なお、今日の研究ではジャワ原人は現代人の直系の祖先ではなく、独自に進化した絶滅種とされており、ヒト属ホモ・エレクトゥスの亜種に位置付けられている。

その後、ジャワ島では150万〜1万年前頃までの化石人骨の発見が続いており、世界中で発見された化石人骨のおよそ半分が、ここサンギランの周辺で発掘されているという。

アフリカで誕生した初期人類がユーラシア大陸に版図を広げていったことを示し、世界遺産においては人類の祖先の足跡を示した、オールドヴァイ渓谷に次いで古い記録だ。



01 オールドヴァイ渓谷

Olduvai Gorge

タンザニア

最古のヒト属と石器文明発祥の地

タンザニア北部に位置するンゴロンゴロ保全地域は、数百万年前に形成された火山のカルデラ地形に広がる自然保護地域である。この大地に刻まれた深さ100m、長さ40kmもの広大な渓谷で、1913年、ドイツ人の教授によって人骨の化石が発見された。1959年には、イギリスの人類学者ルイス・リーキー夫妻によって180万年前の猿人であるアウストラロピテクス・ボイセイの化石が、その4年後には、230万〜140万年前のホモ・ハビリスの化石と彼らが使っていた原始的な石器が発見された。

ホモ・ハビリスは、道具を製作する「器用なヒト」の意味で、最も初期のヒト属とされる。この発見により、オールドヴァイ渓谷は人類の進化をたどるうえで世界最古・最重要の遺跡となった。そして2010年、ンゴロンゴロ保全地域は自然遺産から文化・文明を含む複合遺産へ拡大登録された。オールドヴァイ渓谷は世界遺産の中では、人類の祖先が残した最古の文化といえる。



化石の発見を記念する記念碑。

世界遺産名／登録年
「ンゴロンゴロ保全地域」
1979年(2010年に拡大登録)

アクセス
キリマンジャロ国際空港からアルーシャまで車で約1時間、アルーシャからオールドヴァイ渓谷まで車で約4時間半。



【右】数百万年前の火山の噴火によってできたンゴロンゴロクレーター。オールドヴァイ渓谷はこのクレーターの西に位置している。【下】オールドヴァイ渓谷の全景。赤や白の地層は噴火活動によって形成された。



*火山の活動によってできた巨大な凹地。

【世界のこと】
「日本」東京都昭島市で日本最古となる170万年前のイヌの化石が発掘される。「アフリカ」約180万〜140万年前、ホモ・エルガステルがアフリカ東部で繁栄する。

【世界のこと】
「日本」200万年前、フィリピン海プレートに乗って伊豆半島が本州に衝突。「アフリカ」ユーラシア180万年前、ホモ・エレクトゥスが出現。

BC14000 12000 10000 8000 6000 4000 2000 AD1


【世界遺産】「日本」紀元前1万年頃、縄文時代早期。本州以南でヒグマなどの陸上大型動物が絶滅
 できしとす。【中東】紀元前9000年頃、牛乳が飲まれるようになり牧畜が始まる。

洞窟を埋め尽くす無数の手形
 南アメリカ大陸の南端に位置するペリト・モレノ市の近郊、ピントウラス峡谷の中にクエバ・デ・ラス・manosの洞窟は存在する。スペイン語で「手の洞窟」を意味するこの洞窟には、大小858もの奇妙な手形が残されている。手形はこの地を拠点とした先住民が残したもので、その手法は独創的だ。壁に左手を押し当て、その上から骨で作った管で塗料を吹き付けて描いたとされる。手の形が濃く浮き上がる「ボジ」と、白く浮き上がる「ネガ」があり、描かれた年代も異なるといふ。手形が描かれた理由は不明だが、先住民たちが成人の通過儀礼として手形を残し、この洞窟はその儀式を行う聖地のようなものだと考えられている。

洞窟にはグアナコやレアなどの動物を描いた壁画もあり、これらの絵は紀元前9000年頃のものとして推測されている。この時期までに人類が南アメリカ大陸南端に達したことを示す世界遺産である。

世界遺産名/登録年
 「リオ・ピントウラスのクエバ・デ・ラス・manos」
 1999年

アクセス
 プエノスアイレスからコモドロ・リバダビアまで飛行機で3時間半、コモドロ・リバダビアからバスでペリト・モレノへ行き、現地でツアーに参加。



【上】ピントウラス峡谷の全景。【右】赤・白・黒の塗料で表された無数の手形。



04 クエバ・デ・ラス・manos

Cueva de las Manos

アルゼンチン



BC14000 12000 10000 8000 6000 4000 2000 AD1

03 タドラット・アカクス

Tadrart Acacus


リビア



ウシやキリンなどを追う人々が描かれた岩絵。砂漠化が進む以前はこの地にサバンナが広がっていたと考えられている。

世界遺産名/登録年
 「タドラット・アカクスのロック-アート遺跡群」1985年

アクセス
 トリポリから車で約20時間。



武具か楽器のようなものを手に持った人物像。

砂漠に残された生活の記録

広大なサハラ砂漠の一部であるリビア西部のタドラット・アカクス。砂丘や峡谷、アーチ型の岩山などが広がる荒涼とした大地からは想像もつかないが、先史時代から描かれた何千もの岩絵が、この地に動物と人間の豊かな営みがあったことを今に伝えている。

岩絵は、国境を越えてアルジェリアのタツシリ・ナジェルまでの広範囲に存在する。最も古い紀元前1万2000年頃の岩絵には、ゾウやキリン、カバ、サイなど多数の野生動物が描か



植物の乏しい砂漠地帯だが、浸食によって形成された岩山が変化に富んだ景観をつくり出している。

【世界遺産】「日本」約1万2000年前、石斧や槍、弓矢、土器が作られ、縄文時代の草創期に入
 できしとす。【アメリカ大陸】約1万2000年前、アメリカ大陸に人類が移動する。

05 アルタの岩絵

Rock Art of Alta


ノルウェー



【上】海岸に残された岩絵。人々が船を操る様子が描かれている。【下】トナカイの群れとそれを射る人物。

世界遺産名/登録年
 「アルタのロック・アート」
 1985年

アクセス
 オスロからアルタまで飛行機で約2時間。アルタ博物館までは、アルタの中心地からバスで約10分。



鮮やかに刻まれた極北の芸術
 ヨーロッパ最北端に位置するノルウェーの町アルタの海岸に、約5000点もの先史時代の岩絵群が広がっている。花崗岩の岩盤に輪郭を彫り、その上から顔料を塗り込んで描かれた岩絵には、トナカイやヘラジカ、クマなどの動物のほか、それらを狩る人々や漁船を操る様子が克明に刻まれている。

ノルウェーの北部には、約1万年前から人が住んでいたとされ、岩絵は紀元前4200~前5000年の間に描か

れた。海岸の斜面の最上段の絵が最も古く、下にいくほど新しい。これは、氷河期の終わりに長い時間をかけて海岸の陸地が隆起し、海岸線が下がって新たに現れた岩盤に、新しい絵が描かれたためとされている。古い時代の岩絵には、さまざまな種類の動物や幾何学的な図形など、石器時代の狩猟生活の様子が描かれ、新しい時代のものには農業や呪術、儀式などが描かれている。

アルタに残る数々の岩絵は、人類の版図が北極圏にまで達したことを示す世界遺産である。

*サハラ砂漠にある台地状の山脈。自然の景観と先史時代の岩絵群が世界複合遺産に登録されている。

別冊宝島2110号

世界遺産でたどる

人類は何を造ってきたのか

2014年1月14日発行

創刊人	蓮見清一	企画・編集・執筆	EDing Corporation
共同発行人	関川 誠・熊谷みのり	編集スタッフ	乙原優子・梶間伴果・ 谷 伸子・多田あゆみ
編集長	井野澄恵	デザイン	乙原優子・梶間伴果
編集	橋詰久史	写真	Shutterstock 123RF photolibrary
表紙ロゴ作成	妹尾善史 (landfish)	DTPレイアウト	EDing Corporation
販売責任者	奥瀬典男		
制作責任者	伊藤俊之		
発行所	株式会社 宝島社 〒102-8388 東京都千代田区一番町25番地 電話 [営業]03-3234-4621 [編集]03-3239-0069 http://tkj.jp 振替 00170-1-170829 (株)宝島社	本誌の無断転載・複製を禁じます。 乱丁・落丁本はお取り替えいたします。	©TAKARAJIMASHA 2014 Printed in Japan
印刷・製本	株式会社リーブルテック		アドリア海に臨むシベニクの街並みと聖 ヤコブ大聖堂 (P70)。